

技術情報

JA全農やまぐち
TAC・営農推進課 (083-988-0681)
平成 25 年 6 月 25 日 発行
第 169 号

I 平成 25 年度 第 1 回 水稻生育診断情報

山口県農林総合技術センターからの水稻生育・栽培管理速報(No1)を基に技術情報を作成しました。水稻栽培の管理指導にご活用ください。

1 気象状況

- 5月上旬までは低温気味で推移したが、5月中旬以降、一転して高温傾向となった。5月中の降水量は概して少なかった半面、日照時間も平年並み～やや少なめで推移した。
- 5月27日、平年より9日早く入梅。**5月28日には山口市で83mmのまとまった雨を観測したが、山間部、日本海側での降水量は少なかった。
- 梅雨入り後、6月上旬までは平年並みの気温で推移したが、**6月中旬から高温少雨の天候となった。**特に最低気温の上昇が顕著であり、6月中旬の最低気温は山口市及び山口市徳佐ともに過去10年間で最も高かった。また、**降水量が少ない割に日照時間は平年並み～少なめで推移した。**
- 6月19日～20日にかけて台風4号の接近により、各地で時間雨量20ミリを超える激しい雨を観測した。特に日本海側の雨量が多く、萩市須佐では24時間の雨量が300mmをこえた。

2 生育概況

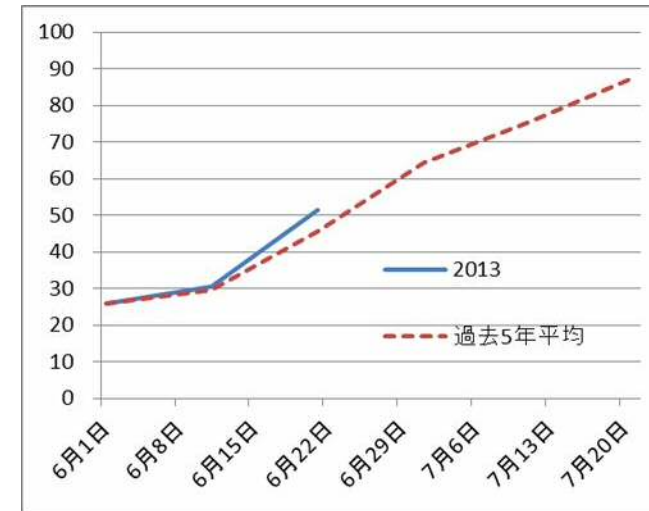
水稻の生育状況(平成25年6月21日現在)

区分	品種	移植期	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉齢(L)		葉色	
			比	差	比	差	比	差	比	差		
奨励品種決定調査	コシヒカリ	5月15日	60	125%	12	609	98%	▲15	9.4	0.3	4.6	▲0.2
	ひとめぼれ		55	125%	11	628	102%	13	9.3	0.1	4.5	▲0.3
	晴るる	6月10日	57	130%	13	635	101%	6	9.5	0.4	4.5	▲0.2
	きぬむすめ		33	110%	3	577	102%	10	9.5	0.6	4.4	▲0.3
定基準ほ	コシヒカリ	5月29日	25	-	-	93	-	-	5.4	-	4.0	-
	ひとめぼれ		30	103%	1	229	72%	▲89	7.9	0.3	4.5	0.1
	コシヒカリ		35	117%	5	244	88%	▲33	7.6	0.2	4.2	0.1
	きぬむすめ		54	126%	11	264	108%	20	7.8	0.6	4.3	0.5
農林事務所農業部調査ほ場	コシヒカリ	5月15日	48	119%	8	370	94%	▲23	9.3	0.6	4.6	0.0
	ひとめぼれ	5月20日	42	122%	8	324	113%	38	8.5	0.8	4.6	0.0
	晴るる	5月21日	37	106%	2	273	87%	▲40	7.8	0.2	4.6	0.1
	きぬむすめ	5月29日	41	126%	8	312	100%	▲1	8.3	1.1	4.6	0.3
	ヒノヒカリ6月上中	6月4日	27	104%	1	147	81%	▲35	6.0	0.2	4.1	▲0.1
	ヒノヒカリ6月下	1月0日										

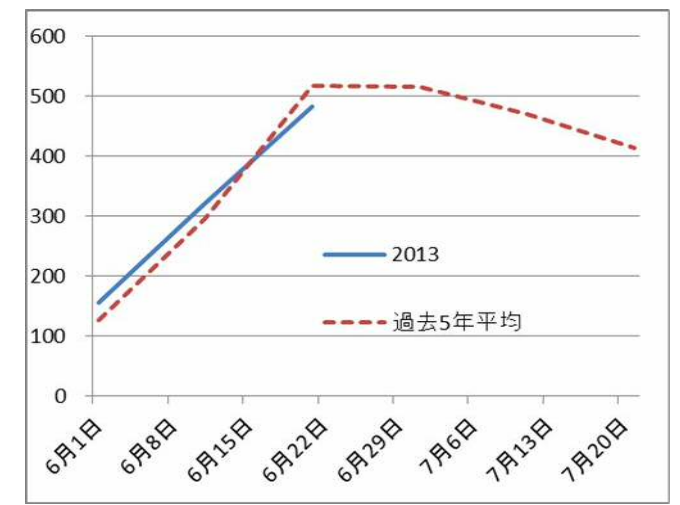
※ 比・差は過去5年平均との比較(定基準ほは過去7年との比較)

(1) コシヒカリ (5月上中旬植え)

- 5月が少雨で推移し用水が不足気味であったことから、田植え時期は平年より3日程度遅れた。
- 6月21日時点の葉齢は平均9.3葉であり、平年を0.6葉程度上回っている。
- 6月中旬以降、高温やや低日照の天候となったことから、山間部を中心に草丈が長く軟弱徒長気味の生育となっている。また、6月上旬には多めに推移していた茎数の増加も緩慢となっているが、田植え時期や苗質の差から、過剰分げつ気味の稲と茎数不足の稲の双方が見受けられる。



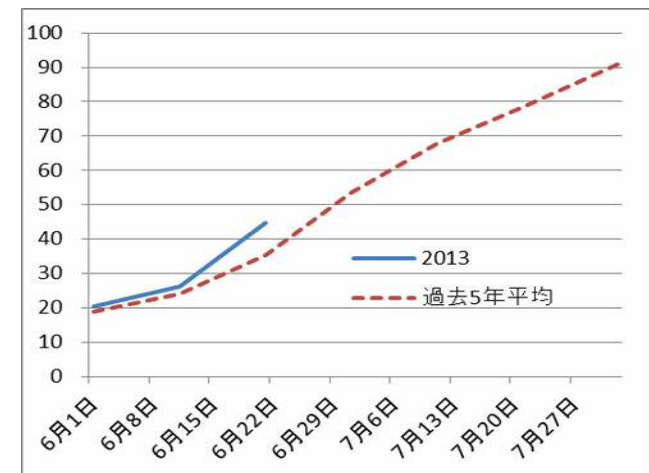
コシヒカリ草丈(萩市吉部)



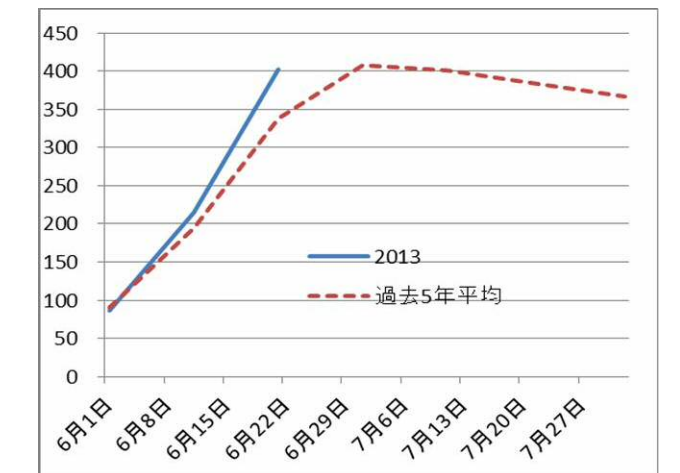
コシヒカリm²当茎数(萩市吉部)

(2) ひとめぼれ (5月中下旬植え)

- 移植時期は概ね平年並みであったが、栽植密度平年に比べて平年に比べて少ないほ場が多く、疎植の傾向が強い。
- 6月21日時点での葉齢は平年を0.8葉程度上回っている。
- 6月上旬以降、茎数は平年を上回るペースで順調に確保されているが、6月中旬以降長草化が顕著となってきた。



ひとめぼれ草丈(周南市須々万)



ひとめぼれm²当茎数(周南市須々万)

(3) 晴るる (5月下旬植え)

- 調査ほ場の栽植密度は平年に比べてm²当たり1.5株少なく、疎植の傾向が顕著となっている。
- 5月21日移植では平年を1葉上回っているが、5月25日移植では0.6葉遅れている。
- 草丈は平年を2cm程度上回っている。
- 5月末に移植された調査ほ場では、移植直後からの不順天候により茎数確保が遅れており、栽植密度の低さと相まって平年より100本近くm²当り茎数が少ない。

(4) きぬむすめ (5月下旬～6月上旬植え)

- 調査ほ場の栽植密度は平年に比べてm²当たり1.3株少なく、疎植の傾向が顕著となっている。
- 6月21日時点での葉齢は、5月25日移植では、平年を3.4葉上回っているが、6月6日移植のものは0.4葉遅れている。
- 5月下旬植えでは草丈が長く、過繁茂気味の生育となっている。

(5) ヒノヒカリ (6月上旬植え)

- 移植時期は平年より1日程度遅れた。
- 6月21日時点での葉齢は平年を0.2葉程度上回っている。
- 草丈は概ね平年並みからやや長い程度であるが、茎数の増加がやや遅れている。

3 病害虫の発生状況

- 葉いもちの発生は平年並みであるが、6月15、21、24日にBLASTAMの好適条件が発生している。
- セジロウンカの発生は平年並みであり、一部の稲で産卵痕が確認されている。
- ドビイロウンカ、コブノメイガは現時点で飛来が確認されていない。

4 今後の管理

(1) コシヒカリ (5月上中旬植え)

- 過繁茂型の生育をしているものを中心に、中干しの徹底を図る。止葉葉齢が13葉の場合、9葉の葉身長は第4節間長と連動することから、倒伏を避けるためにも本年の中干しは重要となる。
- 5月上中旬植のコシヒカリは、7月10日前後から湛水管理時期に入ることから、中干しは7月第1半旬までに完了するよう速やかに実施する。
- いもち病発生好適条件が発生していることから、ほ場の確認を行うとともに発生が確認された場合は、直ちに防除を行う。また、発生が無い場合も、出穂前の防除は必ず実施する。

(2) ひとめぼれ (5月中下旬植え)

- 草丈が長くなっていることから、必要茎数が確保されたら早めの中干しを実施する。
- 5月中下旬植のひとめぼれは、7月10~15日頃湛水管理時期に入ることから、移植時期に応じて計画的な中干しを実施する。
- いもち病発生好適条件が発生していることから、ほ場の確認を行うとともに発生が確認された場合は、直ちに防除を行う。また、発生が無い場合も、出穂前の防除は必ず実施する。

(3) 晴るる、きぬむすめ (5月下旬~6月上旬植え)

- 6月上旬植えのものは、茎数が確保されるまで浅水管理を行うとともに順次間断湛水に移行する。
- 5月下旬植えは、間断湛水を実施するとともに、茎数が確保されたものから中干しに入る。

(4) ヒノヒカリ (6月上旬植え)

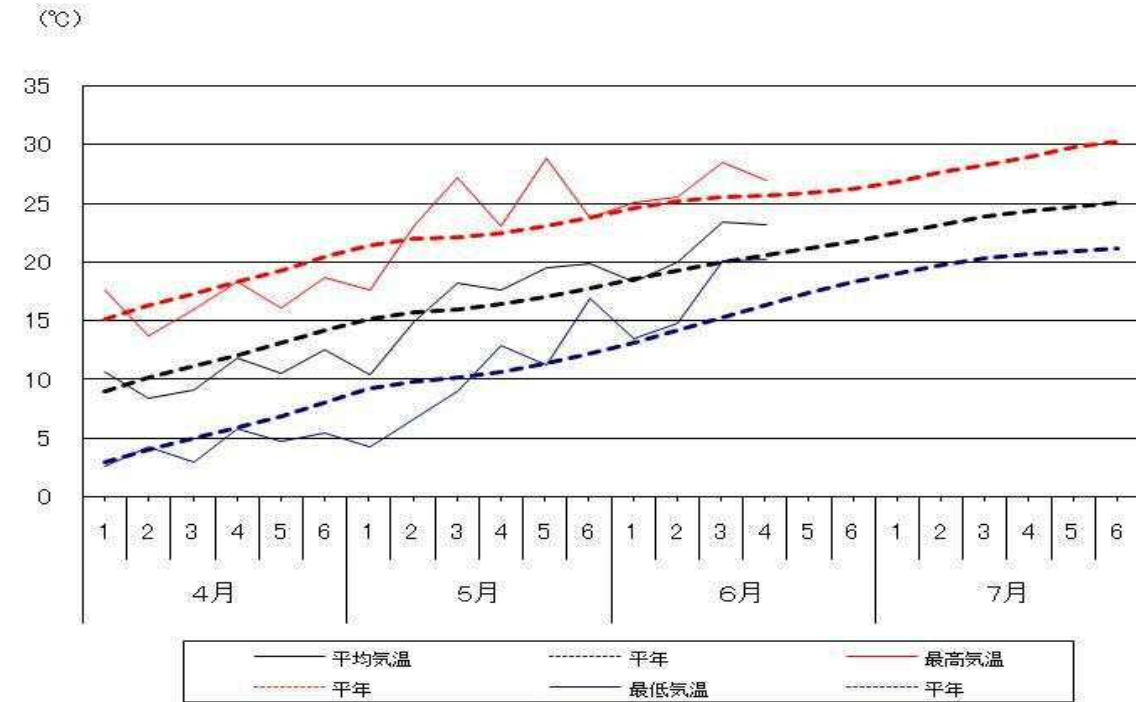
- 初期分けつがやや緩慢であることから、浅水管理を基本として茎数確保を図る。また、赤枯れ症状等根傷みが発生した場合は、落水して稲体の健全化を図る。

(5) その他

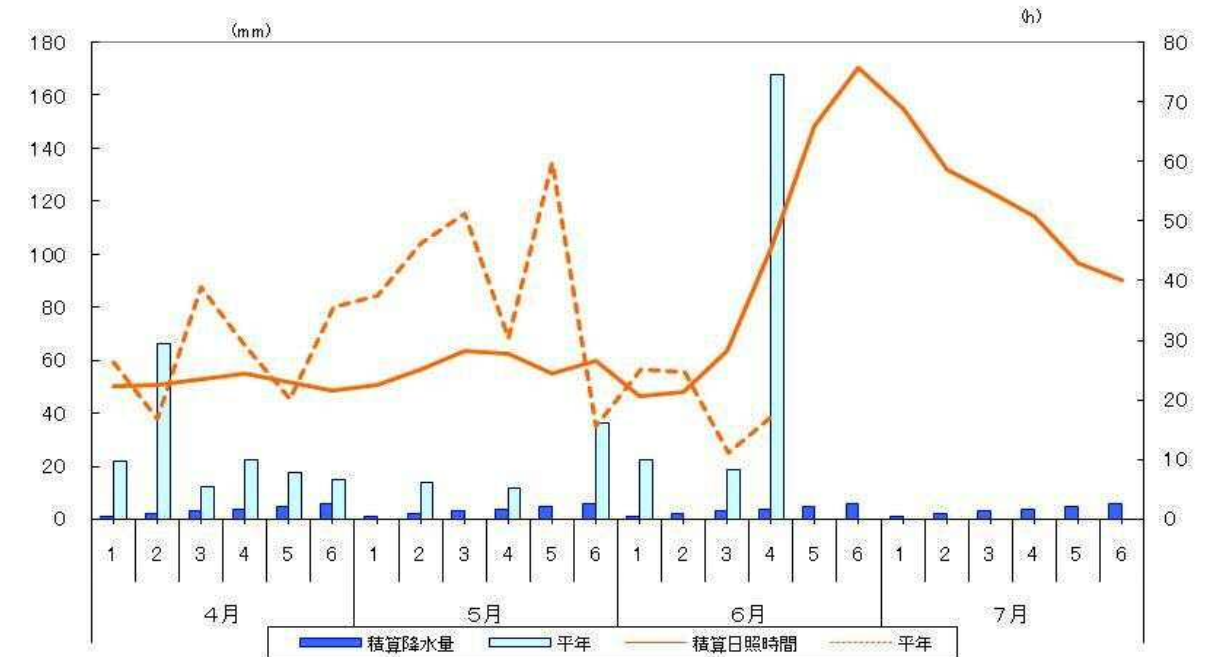
- 田植え後の用水不足により、適切な水管理ができなかったほ場での雑草の取りこぼしが目立っており、中後期剤による処理は遅れないよう行う。

6 2013年度稲作期間の気象

(1) 阿東気象概況 (気温)



(2) 阿東気象概況 (降水量・日照時間)



5 水稻の生育状況

山口市阿東徳佐「コシヒカリ」(6月21日撮影)
 田植え: 5月3日
 草丈 48 cm 茎数 19.6 本/株 葉令 9.7

